

1. 策定の基本的な考え方

- (1) 目的
「フードバレーとちかち」を代表とする十勝圏域の産業振興に係る新たな計画策定等の動きを的確に捉え、これらに示された本地域が抱える様々な課題を解決するため、農林漁業を核とした地域産業の総合的な支援をすることにより、活力ある地域社会の形成に資するよう、計画を策定するもの。
- (2) 目標年次
平成 24 年度～28 年度（5 カ年）
- (3) 策定手法
平成 23 年 6 月に理事会・評議員会に報告したビジョン素案をベースに、理事・評議員を構成員とする「あり方検討委員会」による検討を軸に、管内関係機関の意見等を参考にしながら、策定したもの。
- (4) 計画の推進
策定後、ビジョンを基に実施する事業を効率的にかつ効果的に推進するために、PDCA サイクルによるマネジメント手法を用いて継続的な点検等を行い、それぞれの取組みの進捗状況や社会経済環境の変化等に対し、適宜、見直しを図っていく。

2. 十勝が目指すべき産業振興の基本方向

北海道の新長期総合計画(S63～H9)に位置づけられた「農業地域産業複合拠点戦略（農業コンプレックス）」に基づく「農業や関連産業に関する先端技術の開発や情報の拠点をづくり、農業の生産性を高め、関連産業を育成して地域産業の高度化・複合化を進める」ことの基本方向は、今後も変わるものではないものと捉えるとともに、「フードバレーとちかち」と整合性を図る取組みを進めるものとする。

また、これらのプランを効果的に推進する手段となる「定住自立圏」や「国際戦略総合特区」の取組みについて、併せて連携していく。

「フードバレーとちかち」推進プラン（案）の展開方策として示された次の3つを重視する。

- (1) 農林漁業を成長産業にする
- (2) 食の価値を創出する
- (3) 十勝の魅力を売り込む

3. とち財団が果たすべき役割（参考イメージ図 右頁）

これまでの取組みや成果等から、「ものづくり支援」及び「地域連携支援」は互いに連携しながら、地域の産業振興の支援の柱として、今後も必要不可欠である。

産業振興の総合的かつ効果的に進めていくためには、十勝全体を底上げしていく地域一体的な取組みが一層重要になるものと捉え、とち財団が果たすべき役割の基本的な方向性を整理する。

- (1) 「ものづくり支援」に係る取組みの方向性
 - ・ 入口から出口までの一貫した支援
 - ・ 地域ニーズの把握を原点とした展開
 - ・ 食品系と工業系の連携
 - ・ 専門性を生かした人材養成
 - ・ 基礎データベースの構築と公開
- (2) 「地域連携支援」に係る取組みの方向性
 - ・ プロジェクト事業等を活用した成果浸透
 - ・ 産学官連携・交流の促進
 - ・ 地域一体的なブランド形成
 - ・ 関係機関とのネットワークを生かした物産振興
 - ・ 関係機関との連携協力体制の構築
- (3) 共通的な取組みの方向性
広報広聴プロジェクトチームによる積極的なPR展開
- (4) 財政運営の課題と方向性
自主財源確保に向けた手法などの検討

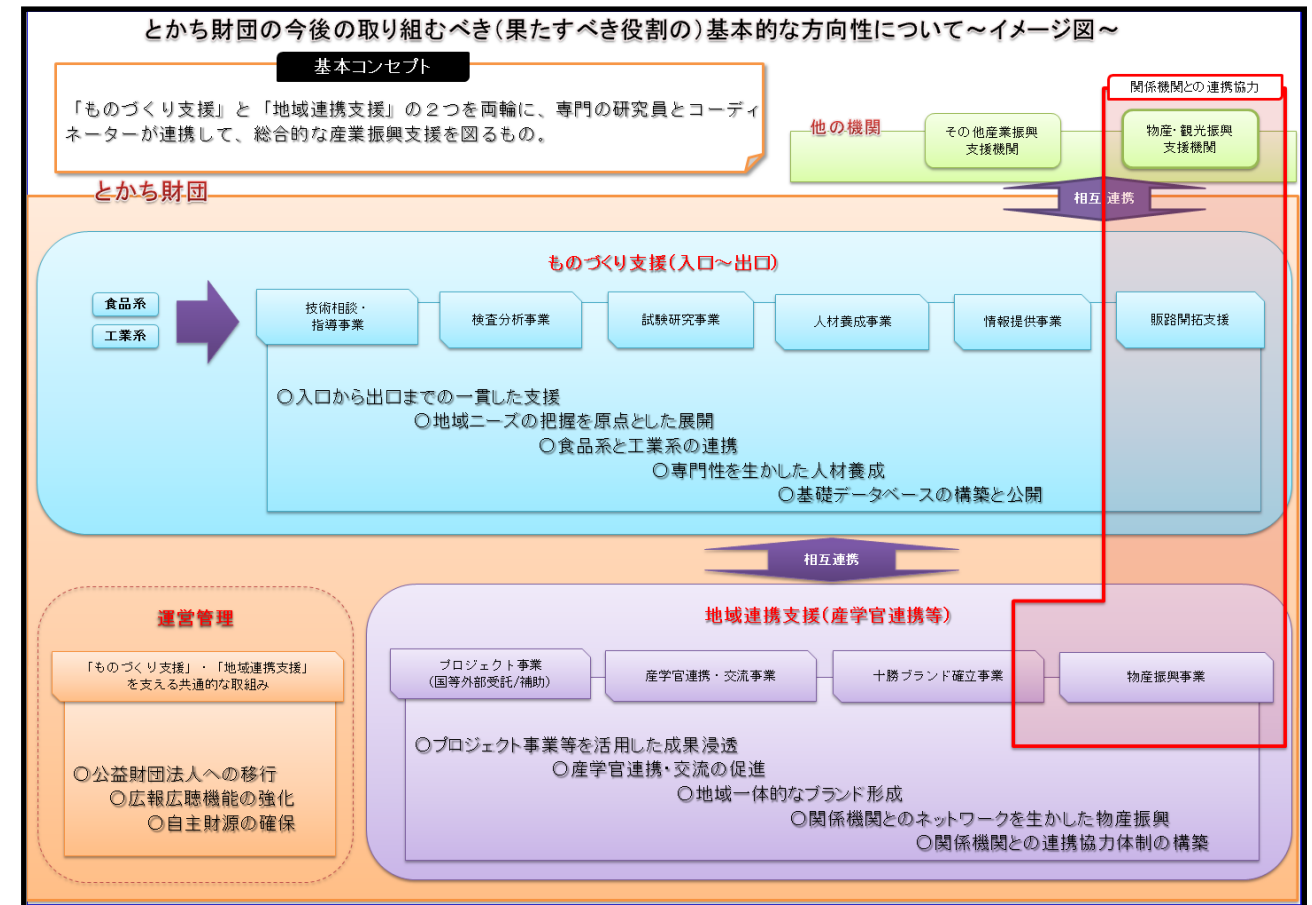
4. とち財団の事業の展開方向（参考イメージ図 右頁）

事業毎の展開方向については、取組みの方向性に基づき、「ものづくり支援」・「地域連携支援」の2つの柱に基づき、十勝圏地域食品加工技術センターと十勝産業振興センターの機能を活用し、具体の事業を展開していく。

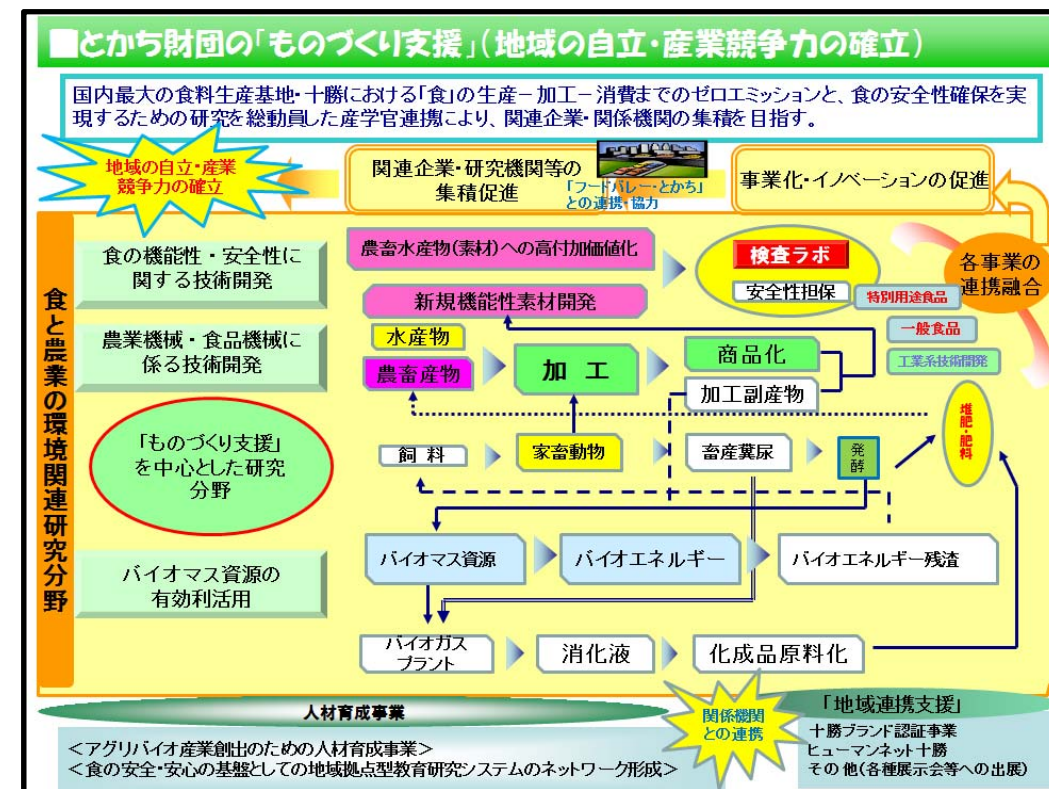
5. 公益法人制度改革に係る対応について

平成 23 年 6 月の理事会・評議員会における「公益財団法人」への移行決議を受け、平成 25 年 4 月の移行を目指し、所定の手続きを進めていく。

参考）果たすべき役割のイメージ図



参考）事業の展開方向のイメージ図



*** とちABCプロジェクト**
(平成 23 年度 文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム(都市エリア型)」の補助事業) A griculture B ioscience Cluster プロジェクトの略。文部科学省の「都道府県の都市エリア地域の個性を発揮して、産学官の連携促進を図りながら、大学等の「知恵」を活用して新事業シーズを生み出して新事業を創出し、研究開発型の地域産業の育成等を目指す事業」として、平成 17 年度より中核機関である財団のメインプロジェクトとして展開してきたもの。テーマは、①農畜産物及び加工副産物からの新規機能性素材開発、②農畜産物及び加工品の安全性確保の2つ。事業成果を地域のフードシステムに活用する「とちかち元気食」構想を併せて検討中。